

インタラクティブ空間演習 (女子美術大学大学院)

【講義】 「コミュニケーション」と「メディア」
～記号論の理解のための基礎事項の整理～

講義担当： 石井 拓洋
ishii05042@venus.joshiu.ac.jp

2014
2015

本日は話すこと

- 「コミュニケーション」とは
- 「メディア」について
- 「コミュニケーション」の仕組み

※ M・マクルーハン「メディアはメッセージである」

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」の多義性

コミュニケーションとは、言うならば、自分が頭の中に抱いている〈抽象的〉な広義の思考内容のコピーを相手の頭の中にも創り出す行為である

出典：池上嘉彦 「II.伝えるコミュニケーションと読みとるコミュニケーション」 『記号論への招待』 37頁。

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」の多義性

1. 社会生活を営む人間の間に行われる**知覚・感情・思考の伝達**。
言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。
2. (生物学の用語として)
 - ア). 動物個体間での、身振りや音声・匂いなどによる**情報伝達**。
 - イ). 細胞間の**物質の伝達または移動**。細胞間コミュニケーション。

出典：「コミュニケーション」『広辞苑 第五版』1004頁。

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」の多義性

- 記号の制作、伝達、受容、解釈からなる表現(※)の働き、もしくはその中で記号作用、伝達、受容、解釈情報が循環する回路のこと

(※) 「表現」：意見・思想・感情などの〈内的なもの〉を、言葉・身振り・表情などの〈外的なもの〉に表すこと、またその〈外的なもの〉のこと。

出典：「コミュニケーション」『岩波哲学・思想事典』543頁。

「表現」『岩波哲学・思想事典』1337頁。

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」の多義性

- 記号の制作、伝達、受容、解釈からなる表現(※)の働き、もしくはその中で記号作用、伝達、受容、解釈情報が循環する回路のこと

(※) 「表現」：意見・思想・感情などの〈内的なもの〉を、言葉・身振り・表情などの〈外的なもの〉に表すこと、またその〈外的なもの〉のこと。

出典：「コミュニケーション」『岩波哲学・思想事典』543頁。

「表現」『岩波哲学・思想事典』1337頁。

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」の多義性

- 「意見の交換や意志の疎通」(石田, 97)を示す
ex.) 「親子のコミュニケーション」、「企業のコミュニケーション」
- 「通信」を示す
ex.) 「コミュニケーション産業」
- 「往来や交通」(石田, 97)を示す
ex.) 「都市間の交通コミュニケーション」

出典：石田英敬『記号の知／メディアの知：日常生活批判のためのレッスン』97頁。

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」の語源

communicate 英語 v.t. 「伝達する」、 v.i. 「伝え合う」

→ **communicare** ラテン語 【コミュニカーレ】 「**共通にする**」

→ **communis** ラテン語 【コミュニス】 「**共通の**」

出典：下宮忠雄ら 『スタンダード英語語源辞典』 大修館書店、103頁。

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」の語源

communicate 英語 v.t. 「伝達する」、 v.i. 「伝え合う」

→ communicare ラテン語 【コミュニカーレ】 「共通にする」

→ communis ラテン語 【コミュニス】 「共通の」

「共通にする」 ための手段としての「通じ合う」必要性

→ そこから「伝え合う」という今日的な意味が発生

1. 「コミュニケーション」とは

何を「伝え合うのか」？

1. 「コミュニケーション」とは

何を「伝え合うのか」？

コミュニケーションでは

「メッセージ」 message を「伝え合う」

1. 「コミュニケーション」とは

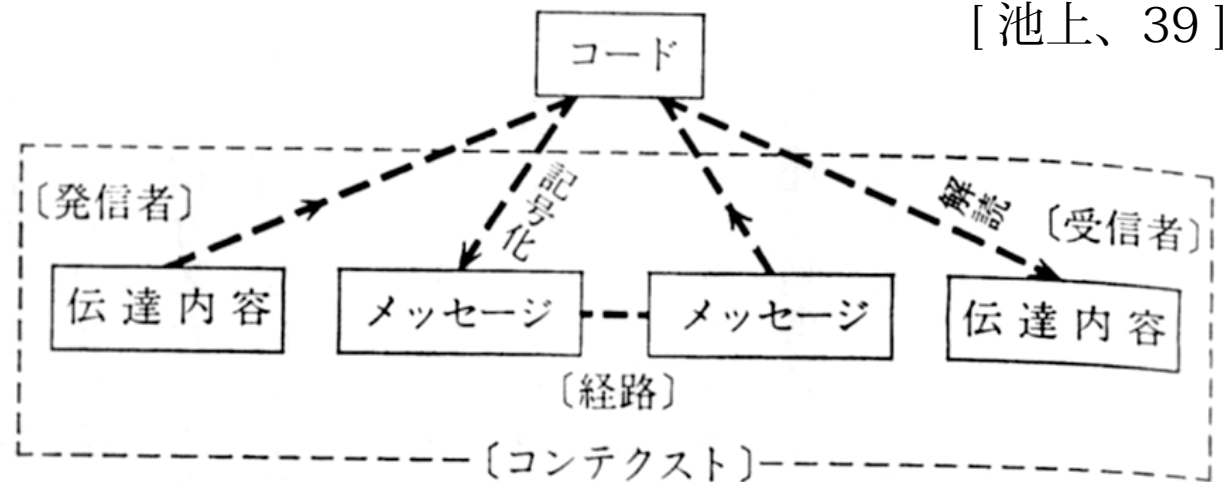
「メッセージ」とは？

伝達するためには、**思ったり感じたりしている事柄を表現する**（文字通り、「**表に表わす**」）ということが必要である。
そのようにして**表現されたものが「メッセージ」と呼ばれる。**

[池上、38-39]

1. 「コミュニケーション」とは

「メッセージ」とは？

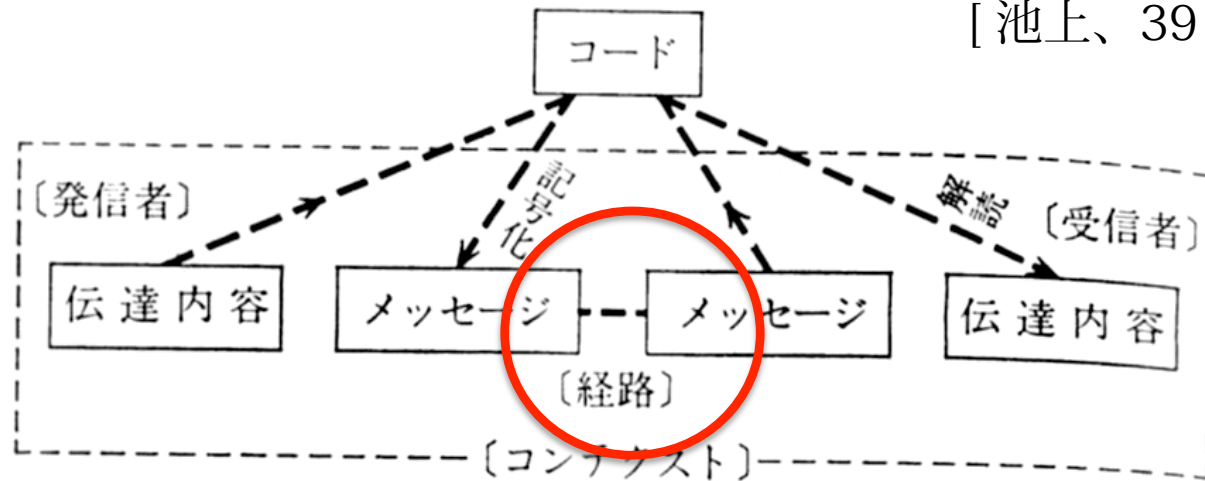


メッセージは、発信者と受信者との共通の理解に基づいた決まり
つまり、「コード」に従って「制作」され「解釈」される。

1. 「コミュニケーション」とは

「メッセージ」を伝達するには？

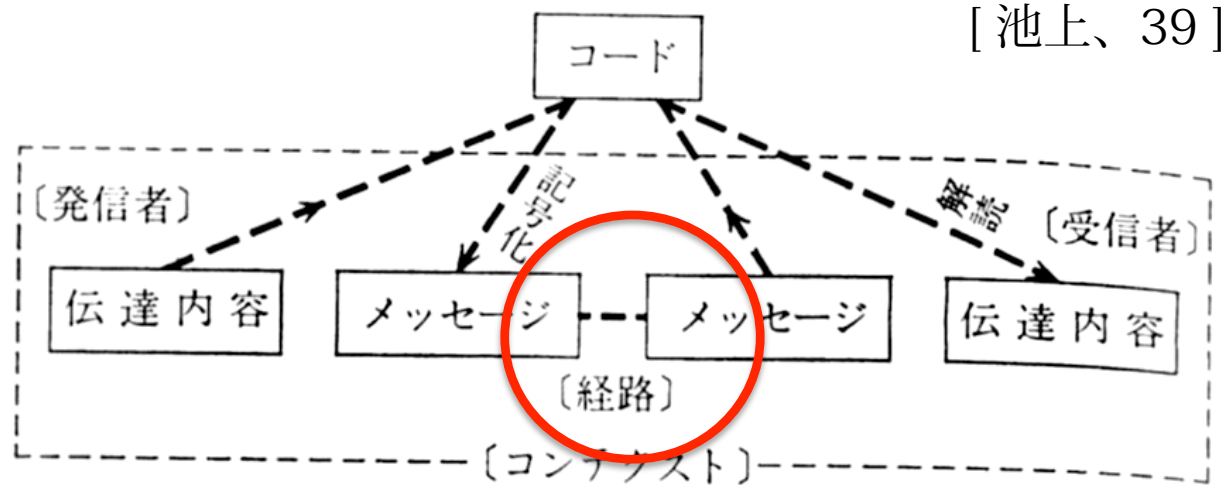
[池上、39]



メッセージを、伝達・受容するためには、、、

1. 「コミュニケーション」とは

「メッセージ」を伝達するには？

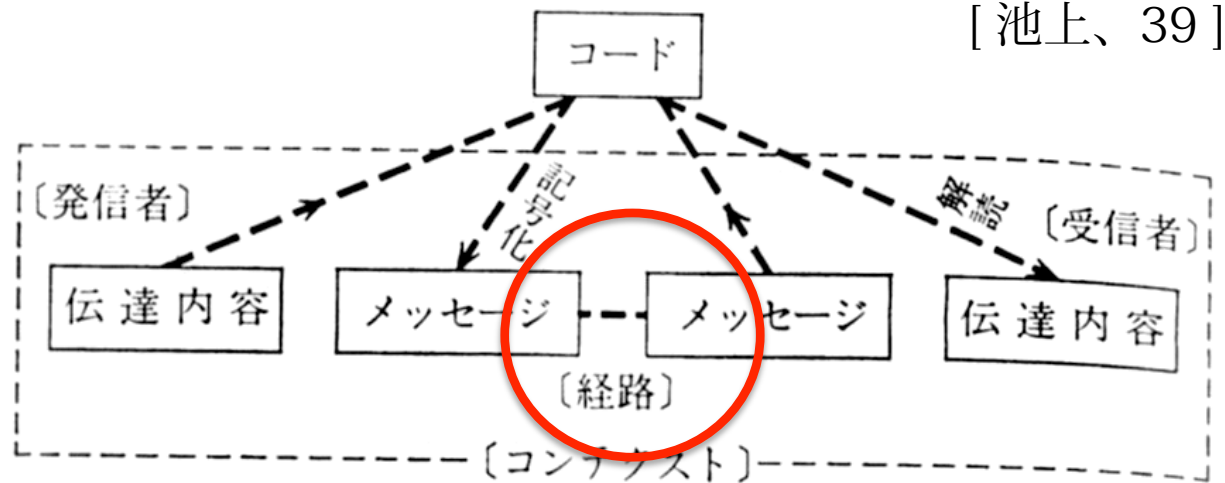


メッセージを、伝達・受容するためには、、、

メッセージをのせて運ぶための媒体「メディア」が必要

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」と「メディア」



コミュニケーションが成立するところには
かならず「メディア」という媒介が必要

[石田、98]

1. 「コミュニケーション」とは

「コミュニケーション」と「メディア」

したがって、

コミュニケーションを考えるためには、

すくなくとも「メディア」を考える必要がある

2. 「メディア」について

2. 「メディア」について

修士課程 デザイン専攻

メディアアート造形研究領域

2. 「メディア」について

修士課程 デザイン専攻

メディアアート造形研究領域

「メディア」 ?

「メディアアート」 ?

2. 「メディア」について

「メディア」の語

- **media** 英語 (n. “medium” の複数形)
- **medium** 英語 n. 中間、中庸、媒介、手段、方法

→ “medium” ラテン語 「中間」

→ 19世紀には 「霊媒 (師)」 のような意味でも使用された

2. 「メディア」について

「メディア」の語

情報の乗り物、情報の支えという今日的な意味での

「メディア」の語が使用されるようになったのは 1950年代以降。

本、新聞、映画、写真、コンピュータ、テレビなど、

〈情報を伝えるための手段となる存在や環境〉、その全てを、

現代では「メディア」と呼ぶ

[石田、84, 85]

2. 「メディア」について

「メディア」とは、結局、どのような「形」で存在するものと言うべきか？

ex.)

- 「電波」なる電磁波という物理現象としての「形」と限定していいのか？
- DVD などの「情報記録メディア」という物質として「形」？
- 0,1 の数値データのような「情報」として「形」ではないのか？
- 「日本語」のような「言語 = 記号」の形なのか？
- 記号はどのような「形」として存在することで、記号となるのか？

2. 「メディア」について

〈本 = メディア〉とは、どのような「形」で存在しているものか？

- 本は紙という〈物質〉で出来ている。
→ しかし、紙という〈物質〉のみでは本ではない（読まれるべき〈記号〉が必要）。
- 本は言語という〈記号〉で出来ている。
→ しかし、言語という〈記号〉のみでは本ではない（記号を記すべき〈物質〉が必要）。

参考 [石田: 87]

2. 「メディア」について

〈本 = メディア〉とは、どのような「形」で存在しているものか？

- 本は紙という〈物質〉で出来ている。
- 本は言語という〈記号〉で出来ている。

つまり 〈本 = メディア〉の「形」とは

→ 紙という〈物質〉に、言語という〈記号〉が記された「形」で存在する

参考 [石田: 87]

2. 「メディア」について

〈メディア〉とは、どのような「形」で存在しているものか？

- 〈DVD〉のメディアの「形」とは
→ 光学ディスクという〈物質〉に、映像などの〈記号〉が記された「形」
- 〈テレビ〉のメディアの「形」とは
→ 電磁波という〈物理現象〉が、映像などの〈記号〉を帯びている「形」
- 〈インターネット〉のメディアの「形」とは
→ PCネットワークという〈物質的な存在〉に、多様な〈記号〉が記された「形」

2. 「メディア」について

〈メディア〉とは、どのような「形」で存在しているものか？

- 「メディア」であるといえるのは、
〈物体〉に文字や画像などの〈記号 = メッセージ〉が記された状態になっており、
〈記号 = メッセージ〉を読み取ることができる環境になっていること

つまり

- **メディアとは〈記号を帯びた物質的な存在〉である**

参考 [石田: 86]

2. 「メディア」について

〈メディア〉とは、どのような「形」で存在しているものか？

- ・ 「メディア」とは 〈記号を帯びた物質的な存在〉

そして

- ・ 記号現象が成立するには
物質的な存在としての「メディア」が必要

2. 「メディア」について

〈メディア〉とは、どのような「形」で存在しているものか？

- 言語表現、絵画表現、音楽表現などの記号現象の過程では、

〈精神的な営み〉と〈物質的なもの〉との

両者が必要となり、その相互関係で深められる

ex.) 「思っているだけでなく、言葉にしないと伝わらない」
さらに「文字に書くことによって、考えがより明確になる」など

3. 「コミュニケーション」の仕組み

3. 「コミュニケーション」の仕組み

「メディア」があるところには
コミュニケーションがある。

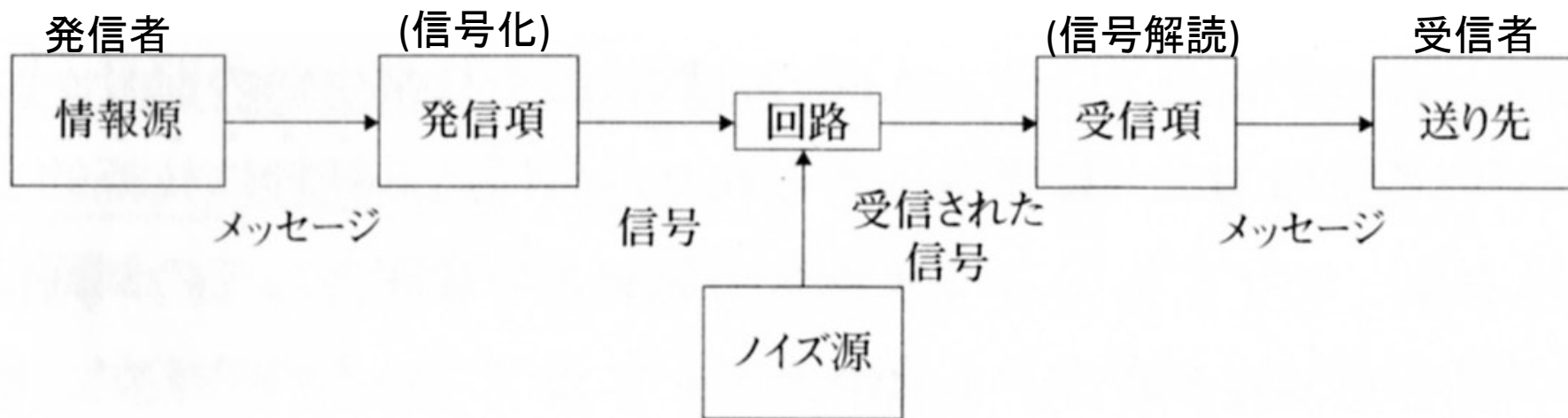
その意味で、メディアアートと
コミュニケーションは同義である。

ゆえに、コミュニケーションをモデル化
して把握することは、メディアアートの
制作方向性にも新たな視点を与える
可能性がある。

3. 「コミュニケーション」の仕組み

技術的側面からの数理的なモデル化

3. 「コミュニケーション」の仕組み

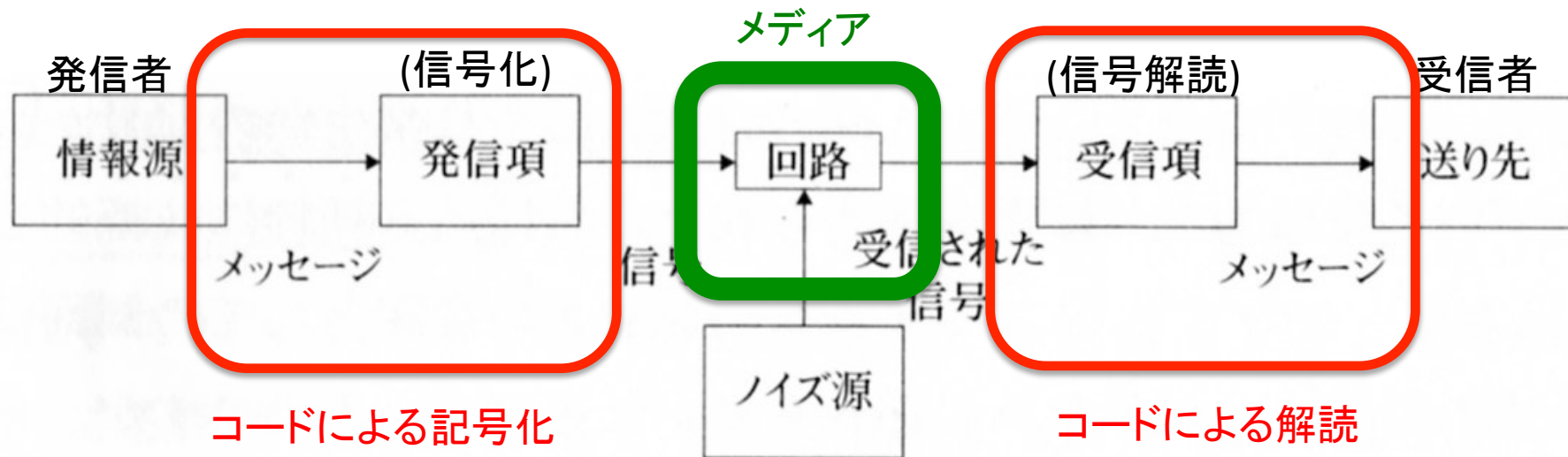


「シャノンとウィーバーのコミュニケーションモデル」(1949)

→ 「電話モデル」に基づく技術的側面に限定したコミュニケーションを数量化(数式化)した。

→ 「コミュニケーション」の過程、成功・不成功を数量化した。「情報エントロピー」。

3. 「コミュニケーション」の仕組み

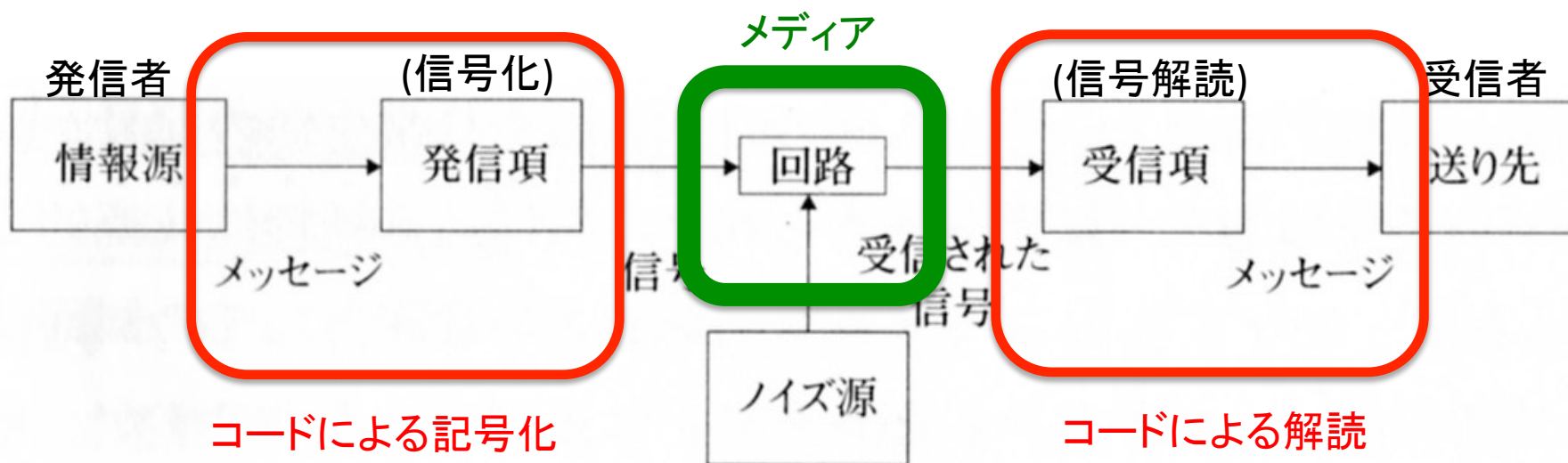


「シャノンとウィーバーのコミュニケーションモデル」(1949)

→ 「電話モデル」に基づく技術的側面に限定したコミュニケーションを数量化(数式化)した。

→ 「コミュニケーション」の過程、情報量を数量化した。「情報エントロピー」の大小。

3. 「コミュニケーション」の仕組み

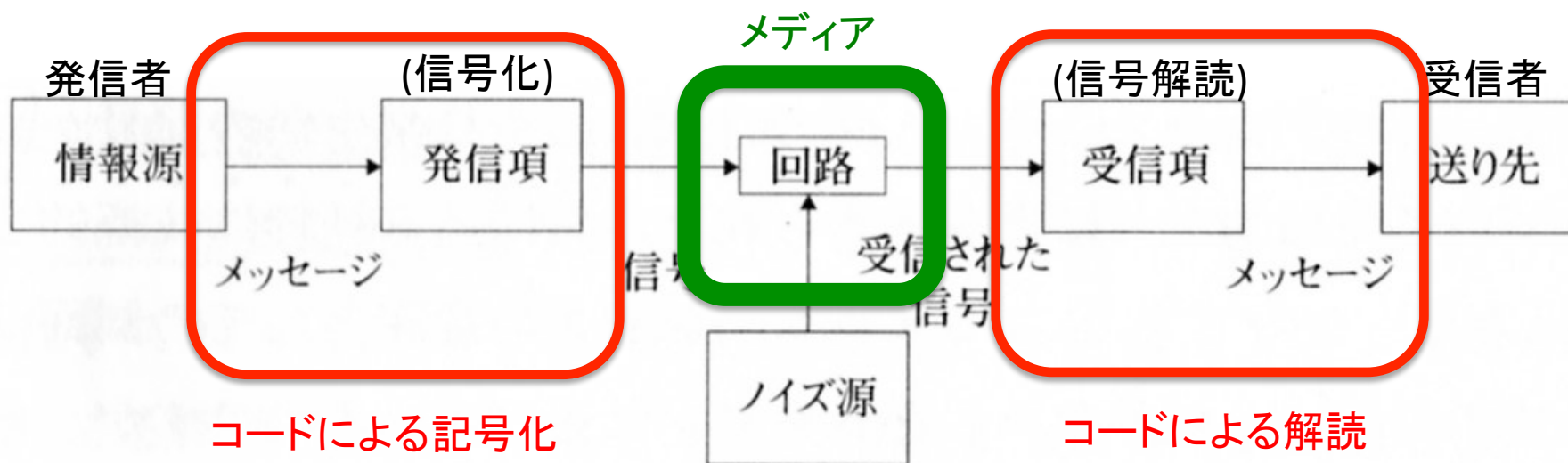


ここにみる「コード・モデル」が、後に言語学者によって採用されることになる。

「コード・モデル」：

コミュニケーションのモデルの一つ。発信者が〈言いたいこと〉をコードに基づいて「メッセージ」を作り、受信者がそれをコードに基づいて解読することによってコミュニケーションが達成されるというもの。他のモデルには「推論モデル」など。

3. 「コミュニケーション」の仕組み



【原著】 C.Shannon & W.Weaver “*The mathematical theory of communication*” University of Illinois press, 1949.

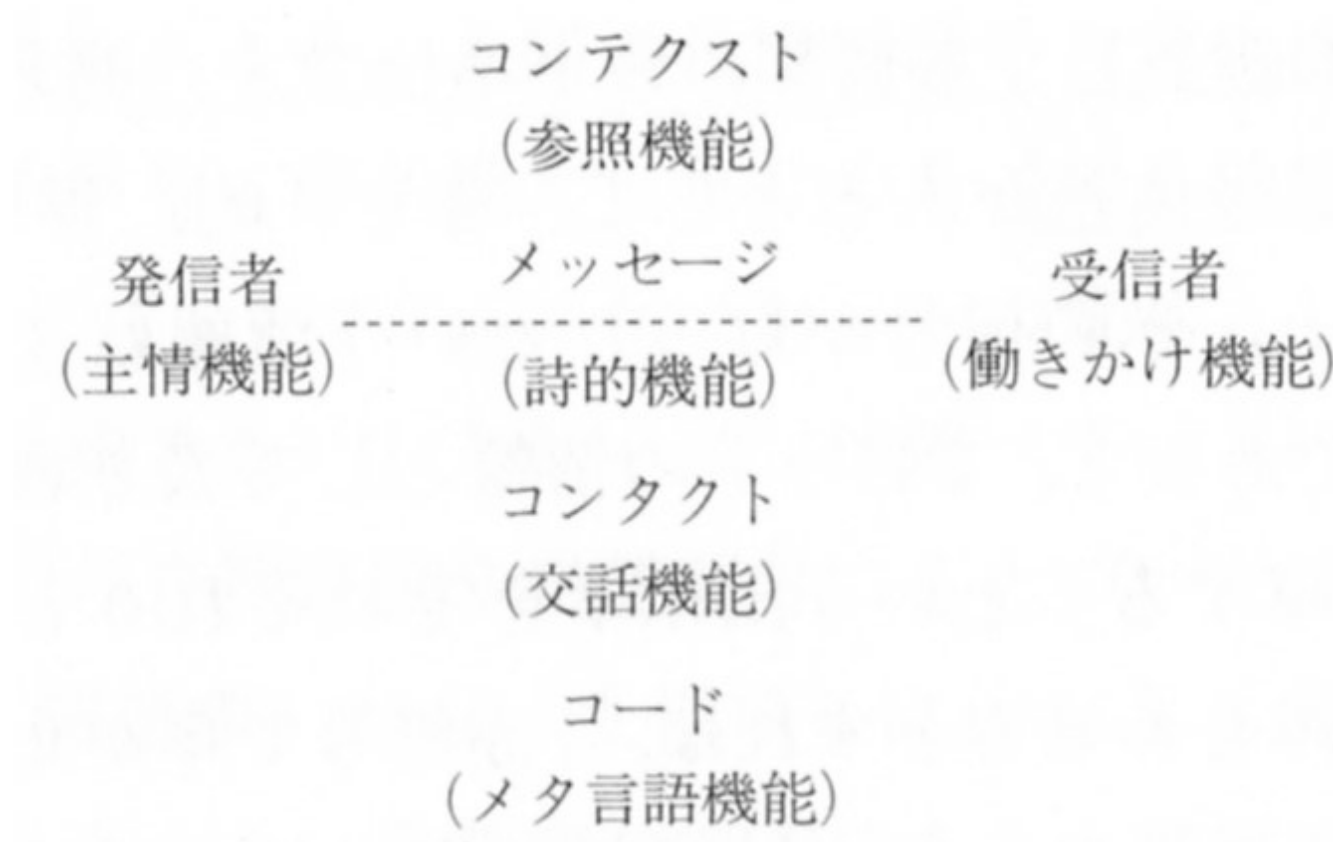
【邦訳】 C・シャノン & W・ウィーバー 『コミュニケーションの数学的理論：情報理論の基礎』長谷川淳ほか訳、東京：明治図書出版、1949年=1969年。

3. 「コミュニケーション」の仕組み

意味論的側面も含めた総合的なモデル化

3. 「コミュニケーション」の仕組み 「コミュニケーション理論」について

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)



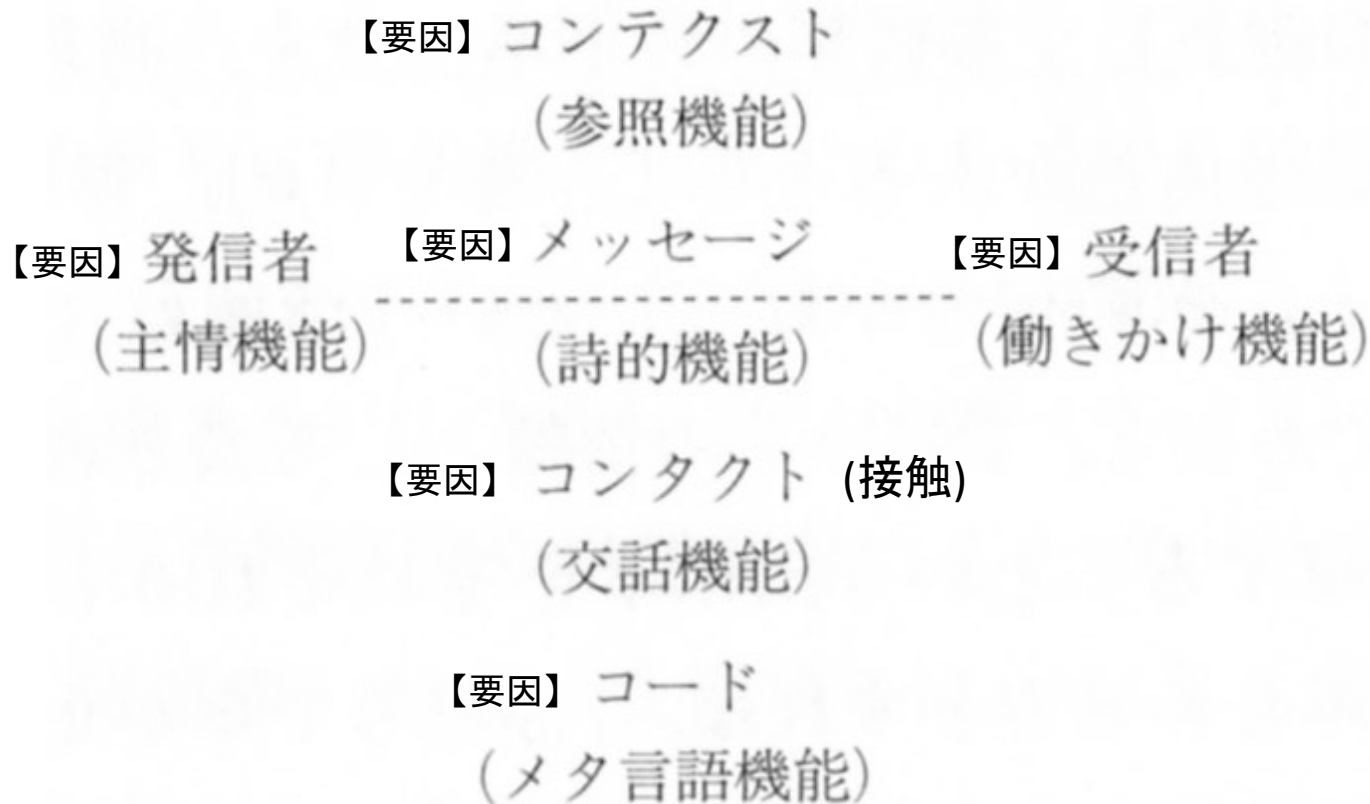
3. 「コミュニケーション」の仕組み 「コミュニケーション理論」について

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)

- シャノンらのモデルで用いられた用語を言語学分野に取り入れてモデル化
- コミュニケーションを構成するために必須な6つの要因を指摘
- 6つの要因にそれぞれ対応する 6つの機能を指摘
- 6つの要因にそれぞれ対応する 6つの機能を指摘

3. 「コミュニケーション」の仕組み 「コミュニケーション理論」について

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)



3. 「コミュニケーション」の仕組み 「コミュニケーション理論」について

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)

発信者 - 主情機能: 「ああ！」という嘆きなど、話し手の感情を直接表す機能

受信者 - 働きかけ機能: 「～しなさい」とする 命令 や依頼を表す機能

コンテクスト - 参照機能: 語が用いられている状況、前後関係の文脈を表す機能

コンタクト (接触) - 交話機能: 「ねえ」等、相手の注意を引き、注意の持続を促す機能

コード - メタ言語機能: 言語の文法や、言語活動をめぐる様々なルールを示す機能

メッセージ - 詩的機能: メッセージそのものへの志向により表現を際立たせる機能

3. 「コミュニケーション」の仕組み 「コミュニケーション理論」について

ヤコブソンの「六機能図式」(1960頃)

